

ヴィーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第14号

発行 東多摩再資源化学業協同組合
 編集長 吉浦高志
 社長 紺野武郎
 東京都東村山市久米川町1-16-5
 TEL & FAX 0423-95-9788

新世紀に即した

新たな議論の場を!

二千年の記念すべき新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。都庁において開かれていた『新聞リサイクル推進会議』が、昨年十月、新聞古紙と折込みチラシの混合回収を進めるコメントを発表し、次に販売店が配る古紙収納袋の是非や品質などを議論している。この会議は、在京新聞六社と各社販売店代表・大手製紙会社五社(洋紙)・七都県市・古紙回収業者など、新聞古紙リサイクルに関わる関係業界や団体で構成されている。各業界は、互いに得意先でありながら利害相反する立場で、一同に会しての議論だ。そして全会一致でルールを作り守る約束を取り交わした。実はこの様なメンバー構成でのリサイクル会議は、回収業

界が十数年間要望してきたルールで、はじめてチラシや収納袋の是非や功罪を夫々の立場で話し合えたように思う。今後この会議の重要課題は、税金に頼らないで民間活用ができる古紙回収コストの負担を、誰がどこで行なうのか、適正な古紙価格は、などの難問解決へと発展するはずだ。こう言った議論の場を書籍雑誌の出版業界にも早急に設けて頂きたい。製本や販売そして回収・再利用面での問題点が山積しているのに、各業界一方面的な主張や同業者間の競争で雑誌古紙リサイクルを阻害していることが多い。容器包装リサイクル法で実施したペットボトルも、全国各地で様々なトラブルが発生している。回収コストの税金負担・再資源化施設不足・民間回収機構との連携などで事前の議論は殆ど無かった。製造販売業界の意見だけが強

調されれば、発生抑制効果は無くなり、結局システムそのものが崩壊し、国民の負担が倍増することを証明した。新たに実施するプラスチック類や紙箱包装紙なども、さらに悪条件でのスタートとなる。リサイクルの実践をする市町村や回収業界そして消費者が国や生産者・飲料メーカーと共に議論し思考するテーブルを用意できないものだろうか。『直言拝聴』で述べておられる滝本先生の「ごみ処理場のない街」を作る運動から世論を逆流させ、産業界界に対しても経済活動を低下させずに応分の負担をしながら、その産業が発展できるルール作りをして、理想的な循環機構に近づける話合いの場作りを積極的に推進するよう望む。科学や経済の発展にのみ溺れ、二一世紀の子孫に、借金とこみしか残せなくては、あまりにも無責任すぎる。

直言拝聴

環境の世紀を控えて

環境カウンセラー

東村山市廃棄物減量等推進審議会会長
会社役員

滝本光成

☆青森「三内丸山遺跡」
にて

昨年の秋、日本最大の縄文集落遺跡と云われている三内丸山遺跡を訪れた。縄文時代前期から中期にかけて継続的に存在した集落というから、四〇〇〇年ないし五五〇〇年前の生活の遺跡である。

これまでの発掘調査の結果、五〇〇棟を超える大小建物跡、大人、子供それぞれの墓列、貯蔵穴群、粘土採掘跡などが続々と発掘されているが、その中にごみ捨て場もある。そしてなんとそこでは「燃えるごみ」と「燃えないごみ」がきちんと分別して捨てられていたのだ。偶然だろうか「燃えるごみ」の集積場は泥炭の地層にあったため、木製品、繊維の断片、魚の骨などのほか種子などが今日まで保全されてきた。「燃えないごみ」は土器、石器、骨角器等の類である。

私はその場で日本の先人達の自然を慈しむ繊細な心に触れしげし立ちすくんだ。かつて見た巨大なエジプトのピラミッド、中国の兵馬俑等とは全く異質の「日本人の心の原点」を見た深い感動が心に染みわたってきたのであった。

現実に戻ったとき最初に浮かんだのが「このような立派な先人を持ちながらなぜ五〇〇〇年たった今、たかがごみ問題ごときが解決できないのだろうか」という素直な疑問だった。

☆二十一世紀の課題

かつて私は元陸軍参謀の経歴を持つ会社の上司に「二十世紀には戦争はなくなりますか？」と尋ねたことがある。答えは「NO」だった。その理由は「人類始まって以来戦争の原因は三つしかない。①食料・水②エネルギー③宗教だ。これらは二十一世紀にな

っても戦争の火種であり続ける」というものであった。

宗教の問題はさておき、二十一世紀の人類の課題を考えてみても先ず「食料・水」「エネルギー」は外せない。武力による戦争は減少するかもしれないが、知力を尽くした資源の奪い合いはより熾烈になるだろう。これらに加えて大きな位置を占めるのが「環境問題」だ。東京の平均気温は過去一〇〇年間に二・九度上昇し、昨年九月の月間気温は種子島の平年値を上回った。

☆環境問題の原点

全ての環境問題は地球（自

然現象・自然循環」と人間生活（開発・生産・消費・廃棄）のバランスの崩れに起因する。そして長い歴史は、人間が思うがままに自然を征服し、制御する試みはおおむね失敗に終わったことを証明している。

これからは歴史の教訓に習い、①自然に対し謙虚になる②人間が行ったことは人間が責任をもって元に戻す③地球に良いことは躊躇なく素直に実行に移す。の三点を忠実に実行して行かねばならない。その取っ掛かりはごみ問題であろう。すべての人間がかかわる幅の広さと深さ、加えて放置できる猶予が残り少ないからである。

☆ごみ処理場のない街

さて、ごみ問題を解決するための短絡的な結論だが、どうすればごみ処理場をなくせるかを考えてみればその姿が

見えてくる。

日本で良く使われるごみ対策の標語は「出さない・燃やさない・埋めない」である。ヨーロッパでは「つくらない・買わない・捨てない」というモットーが良く使われている。

この二つを指針とすれば答えは「ごみ処理場のない街・いらぬ街」ということになる。幸いにして実現の裏付けとなる技術力と経済性も合格圏に入ってきた。

日本のごみ処理の主目的は明治時代の公衆衛生対策から、生活環境の保全に移行し、更に現在は地球環境の保全が要請されている。

しかし時代の要請と現実の乖離は広がる一方である。この原因の一つは所管する行政の前例至上主義。二つ目は日本人の「その内なんとかなるだろう」「わかっちゃいるけどやめられない」国民性によ

るものと考えられる。

☆まずは生ごみ処理

一般廃棄物に関して云えば、ごみ問題は解決可能な段階に入ったと考えている。その根拠は、次の三点による。

1. 「生ごみ」のコンポスト化もしくは分解によるシステム導入が可能になってきたこと……これにより約四〇〜五〇%の減量・リサイクルが可能

2. 「集団資源回収」の有効性の認識が広がりつつあり、加えて本年四月から容器包装リサイクル法の措置が整うが、所期の成果をあげれば相当の減量・資源化がはかられること……これにより三〇〜四〇%の減量が可能

3. 「分別技術」と「熔融技術」の進歩により不燃物処理の資源化がかなり簡便になってきたこと……これにより一〇〜二〇%前後の資源化が可

能

着手する優先順位であるが、システムとして「生ごみ処理」のシステム導入と「集団資源回収」の輪を草の根的に展開していくことを同時並行的に先行させるべきと考える。

最初に「生ごみ」を取り上げる意味は、ごみの約二分の一を占める存在であると共に「燃えるごみ」から「生ごみ」を切り離すことにより、その他のごみのリサイクルを容易ならしめるからである。

財政負担面でも私の試算では、家庭用の生ごみ処理機を全家庭に無償で配布しても現在の焼却・埋め立てより処理コストが減少する。

眼前に迫った環境の世紀は、現実の世紀で無ければならぬ。ごみ処理場が無くなつた時こそ目標が達成される日ではないだろうか。

以上

新年の あいさつ

理事長

紺野 武郎

二千年代頭初リサイクル業界は、常識が非常識となる大変革が起こるだろう。変化に挑戦する積極性・柔軟性と新たな発想冒険が必要だ。守りの姿勢は大敵。出発進行！

副理事長

藤本 俊光

一九二五年から波瀾万丈の時代を上手に生き抜いた賢明で幸せな男と自負してだが、二〇〇〇年を生きるには大分くたびれてるかな。でも今日より若い日はないんだから頑張ろう。

副理事長

奥山 賢児

今年は何曆二千年という大きな区切りとなる年です。私も昨年七十歳となりましたが、健康に留意し組合事業のためがんばりたいと思います。

副理事長

藤野 昭吾

あけましておめでとうございます。ますます厳しくなるリサイクル事業。再資協発展のつばさになれるようガンバツテ行きたい。

財務委員長

古川 敏雄

昨年は、海外視察旅行など参加することが出来まして大変有意義な一年間を過ごすことが出来ました。今年も、昨年経験したことを生かして邁進したいと思つて居ります。

委託事業委員長

土井益二郎

新年おめでとうございます。二〇〇〇年の幕開け。辰年。前進・上昇。皆さん全員の協力で進んで行きましょう。

福利厚生委員長

萩原 貞雄

何かに追い立てられるかの様に周囲をみる余裕もなく突き進んできた二十世紀。こちらへんで、ふと立ち止まつて

全体を見まわしてみたい。

広報委員長

吉浦 高志

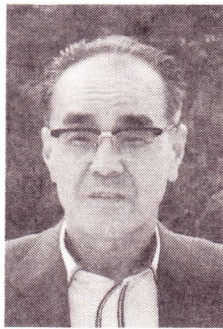
本年は二三区で行政回収が実行され、紙製容器包装の収集も始まります。組合の重要性をもっとアピールするぞ。

集団回収委員長

小畑 和夫

古紙価格の低迷や行政回収の拡大など集団回収を取巻く状況は厳しいものがあります。貴重なリサイクルシステムである集団回収の大切さをアピールし、継続・拡大を計つてゆきたい。

石川厚様のご逝去 を悼む



昨年十月二十六日、当組合

の監査役石川厚様のご逝去されました。

葬儀は、田無市の緑会館にて営まれました。

東資協はじめ多くの組合関係者のご会葬を賜わり、ここに改めて御礼申し上げます。

弔辞

謹んで石川厚様のご逝去を悼み東京都資源回収事業協同組合及び東多摩再資源化事業協同組合を代表致しましてご霊前に告別の辞を捧げます。

石川様には先般十月二十一日にお見舞いにお伺い致しました折は、すっかりした口調で御家族のお話などをして下さり安堵しておりました処へ

この度の突然の悲報に接し誠に痛恨の極みであります。御遺族皆様のご悲嘆は察するに余り有り私共東資協の役員・組合員一同は、心より御哀悼の意を表す次第でございます。顧みますと石川様は東資協

の理事として小金井支部長、東多摩再資源化事業協同組合の監査役など当地域のみならず広く東京都全体の組合活動の要として長年に渉ってご尽力下さり、常に私共をご指導・お励まし下さいました。今ここで私共の心の支えを失いますことは暗然たる気持ちで一杯でございます。

組合も石川様他諸先達のご努力のお陰で先般創立五十周年を迎えることが出来ました。今後は貴方様が身を持って示された御教訓を胸に組合員一同一層業務に精励し資源循環型社会構築の先兵として邁進致す覚悟でおりますことをご霊前にお誓い申し上げます。安らかに御永眠遊ばされませう様に。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成十一年十月三十一日
東京都資源回収事業協同組合
東多摩再資源化事業協同組合
理事長紺野武郎

五十四年ぶりの中国 東北地区を旅して

(有)藤本チエーン 藤本俊光

出発は暑い最中の七月二十日、二日で八日間の旅でした。旧満州は私に取っては第二の故里なので。十三歳から二十一歳まで学び働き遊び青春の思い出多い満鉄社員時代を暮らした地だからです。

今年には五十四年振りの里帰りなので感無量のものがありました。半世紀すぎた現代の中国は見事な発展振り、変わり様、生き生きと働き活気に満ちた姿に接し、おどろきとうれしさに涙すること度々でした。

上海で入管手続をすませ同じ飛行機で北京へ。北京で市内見学と万里の長城に登りました。北京市は何処でも清掃作業員が目立つ程多く清潔な町でした。

北京からハルビンへ。空港

の中は人・人・人で一杯。離陸する飛行機は五メートルの間隔くらいで飛行機の行列：何分かに一機又一機と国際線なのか国内線でしょうか次から次へと飛び立って行きます。ハルピンは終戦前、半年間学

び、列車の車掌として働き思いきり遊んだ町なので、「キタイスカヤ街」(東京の銀座)等は昔のまま建物も保存してあり昔以上のにぎわいでした。戦中のハルビンの人口は三十五万人。其の半数が外国人と云う国際都市だったのに現代は三百六十万。五十年で十倍の大都市に変身してました。

昔の都新京、交通の要所奉天から大連へ。各市で一泊。見て廻りましたが、ハルピンから大連まで山も丘も見当たらず、道路の両側、鉄道の両側は昔と同じ。見える限り畠ばかり。世界でも数少ない大

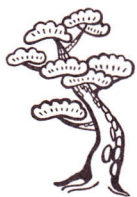
穀倉地。

大連は六十年前渡満。第一歩を踏み、一年間学び、二年後再び来て半年勉強した町ですが、当時と同じ昔のままの建物。広場、公園等も多く、海水浴場なんか昔以上ににぎわってました。

現代の中国の人達にとってはも日中友好を大切に、大変温かく歓迎して下さいたことを報告し、多くの中国の方々に感謝したいと思えます。

旅して見たり聞いたり接したりして感無量の思いも一杯ですし、いろいろ書いたり話りたいことも多々ありますが、又改めて綴らせて頂きます。

尚、此の旅は私と息子と孫三代三人づれで、私の七十五歳の祝に息子が招待して同行してくれました。



(6) 東資協創立五〇周年記念式典開催

当組合（東多摩再資協）の
上部組合である東京都資源回
収事業協同組合（紺野武郎理
事長）創立五〇周年記念式典
が、去る九月二十六日（日）東
京・千代田区の赤坂プリンス
ホテルに於いて、来賓、組合
員合わせて約三〇〇名の出席
者を迎えて開催された。

式典は、江戸消防記念会有
志の木遣りの先導で紺野理事
長、組合執行部の入場で始ま
り「物故者への黙祷」、「開会
の辞」に続き、理事長が、東
資協五〇年の歩みを振り替る
と共に、新世紀に向けて更に
飛躍した組合活動を展開して
行きたいとの挨拶、続いて、
功労者表彰に移り、東京都労
働経済局長感謝状・東京都中
小企業団体中央会会長感謝
状・東資協理事長感謝状が功
労者の方々に授与された。
さらに、この日の来賓は、

八代英太衆議院議員、大野由
利子衆議院議員、保坂参三参
議院議員、都議会議員の方々、
リサイクル関連組合の方々に、
それぞれ祝辞を述べた。引き

海外視察報告

中国・製紙業界事情（レンゴー中山工場にて）

中国視察班は香港・マカオ
も廻つたが、主目的である中
山の連合製紙について重点的
にレポートします。

平成十一年十月十日香港国
際空港に到着した。空港から
バスに乗り窓から見える景色
の中で目を引いたのは、建築
中のビルの足場がすべて竹で、
三〇階でも四〇階でも竹とビ
ニールのひもだけで足場を組
んでいくそうだ。ガイドに危
険はないのか？と聞くと、
「大丈夫。事故はほとんど
無い。でもこの間の台風でけ
っこう飛ばされた」なんて危

続き開かれた記念祝賀会では
紺野理事長、組合相談役、来
賓の方々による鏡割りに続き
乾杯、お囃子や獅子舞いなど
アトラクションを交えた賑や
かな祝宴となった。

ない事を言っていた。しかし
その技術には感心させられた。
十二日朝中山のホテルをバ
スで出発し日本の板紙メーカ
ーレンゴーと中国の合弁会社
（レンゴー中山工場）を視察
した。かつて見学した日本の
製紙工場とくらべて敷地の広
さにビックリした。あまりの
広さにここ全部を見て回った
らヘトヘトになってしまうと
思うほどだ。気温は三〇度を
軽く越えてるし、旅の疲れも
出はじめてるし、製紙工場
の中はムシムシしてるのはシ
ヤツはあつという間に汗だら

けだ。まだ視察前の説明も受
けて無いのに。

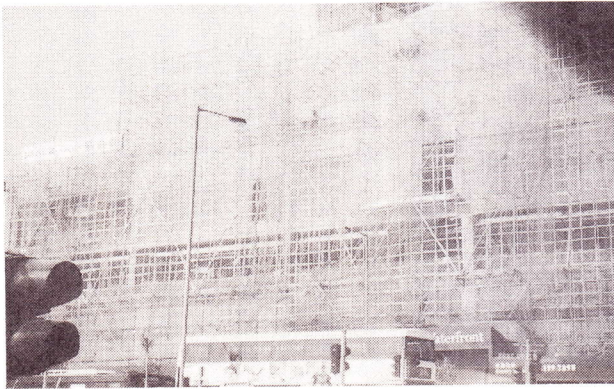
まず現地の日本人社員に会
議室へ案内され工場長のあい
さつを受けた後、工場の説明
が始まった。社員は九四〇人
で製品は日産三〇〇tと言う
事だ。驚いたのは、九四〇人
の半数が製紙業務に当たり残
りの半数がマシンのメンテ
ナンスと運輸などの業務に当
たっているのが現状で機械メ
ーカ―のアフターサービスは
望めないとの事だ。使用する
古紙はダンボールだけで、古
紙の買い付け先は国内三〇%
で残りは香港三〇%、ドイ
ツ・ベルギー・オランダ三〇%、
アメリカ一〇%、日本からの
輸入はほとんど無いと言う事
だ。工場長が言うには、安値
で優良品ならすぐにでも買入
可で日本の品物はとても良い
物だが高すぎてとても使い切
れないと言っていた。また工
場の二〇〇キロ圏内には約二

○社の製紙工場があるので、そのどこかで扱っているだろうと言うアバウトな答えだった。生産コストやユーザの話もあったが、通訳を介してなのであまり良く分からないので、工場見学の話に移ります。

工場は一年間で休日は十二日で、ほとんどフル稼働で働いていると言う凄まじさで見学中も昼食の時間で工員は食堂から現場に食事を持ってきて機械を見ながら取っている状況で休憩時間もなくよく働くなあとという感じだった。広い工場の中は古紙であふれていて現地の回収業者がトラックでダンボールを構内に運び込んでいた。まるで子供の頃父親に連れて行かれた昔の千住製紙を思い出した。たぶん年配の組合員も同じ事を思ったのではないのだろうか？近代設備を見なれた自分たちには懐かしい物を見たなど言う

印象だった。最後に、この国のリサイクルはまだ始まったばかりで手付かずの物がたくさんあり新聞・雑誌・ペットボトルなどが、一体どの様になっているのか仕事から気になる。

現状では我々が手を出す事は出来ないかもしれないが市



竹で組んだ足場

場としては十分魅力的だと思う。すでに組合員の一人はこちでちり紙交換の部隊を

海外視察報告

韓国・古紙リサイクル事情

韓国視察班は、平成十一年十月十日成田空港を出発した。

一日目は市内見学、ハンガンの河の左右に広がる韓国の首都は、ビルの林立の中に、さらに空き地を埋め尽くすかのようにして、建築中の高層マンションが至るところで目についた。王朝時代の宮殿「景福宮」とその史料館には、朝鮮半島の歴史が凝縮されており、生活や宗教・思想など文化の違いや長い年月の日本との関わりなど良く理解できた。

作ろうか？なんて言っているのが印象的だった。

(土井健一郎)

ソル製紙チョンジュ工場』を視察した。同工場は、従業員九五〇名、新聞用紙と中質紙を年間約百万トン生産している、一工場内に稼働抄紙ライオン七基を有しているのは世界一とのことだった。原料古紙の約五〇％は国産で賄っており、残りの輸入品はアメリカの古紙が多かった。日本の新聞古紙はチラシが多く使っていないとのことだった。設備は最新式で工場内も非常に清潔だった。工場に隣接した「紙の博物館」も、ハイテクを駆使した施設で世界的にも評価があり、必見の価値ありだ。

九八年度の韓国古紙事情は、紙・板紙の生産量七七五万ト

ン、同消費量五二八万トン、古紙利用率七二・一%、古紙回収率五八・二%となっており、韓国の古紙リサイクル事業の熱心さを示している。韓国でも新聞の宅配をしているが、折込みチラシは無かった。三日目は、ソウル市郊外にある古紙直納間屋『東信資源』を訪問した。古紙の仕入先は、収集商から八〇%・産業古紙商から二〇%で、収集商とは予め契約を結んで仕入金は前払いしている。また、アメリカからMIX古紙を輸入して、二〇人程の作業員が選分ラインで分別していた。取扱量は月間六千トン。夜十時まで稼働しているそうだ。午後は『韓国資源再生公社』を訪問した。公社は一九八〇年に設立し、主な事業は、経済原理で動かなくなった資源物（カレッシュ・ペットボトル・農業用ビニールシートなど）の回収から再生を支援している。一九

八五年からは重量制で大小のごみ袋を販売して、家庭ごみの有料化をはかっている。資源の分類率も向上している。官公庁街に近い「ニュー・ソウルホテル」に三日間滞在したがその周辺は、市中のごみや落ち葉を片付ける清掃員がいて、大変綺麗な町並みを保っていた。またこの地域のごみは、早朝定められたステ



ハンソル製紙にて

ーションに概ね資源とごみに分けた形で排出されており、これにリヤカーを横付けして古紙・びん・缶などの資源物を、民間の資源収集業者が回収していた。リヤカーで集めても営利事業として十分に成り立っていると言うことだ。市中のある建場業者を訪ねてみたが、やはり貸出し用のリヤカーが十数台置いていて、仕切り場には古紙や鉄くず・アルミなどの山があり、選分

作業をしている人が数人いた。昭和三〇年代の我が業界を見たような気がしたが、なぜか今の我々の業態に優越感を覚えなかったのは、低価格で清掃行政の助成を受けなければ成り立たない自分達の現状と比較したためだろうか。とにかくソウルの街は、九八年の経済危機など微塵も感じさせない活気のある隣国という印象を受けた。

(小畑和夫)

リサイクルQ & A

大切な物を間違っ
て出してしまった場合
どうすればいいの？

=気付いたらすぐ連絡=

Q 資源回収で、間違っ
て大事な物を出してしまっ
たのですがどうしたらいい
のですか。

A 回収業者名が解らない
場合、集団回収か市の資源
回収なら市のリサイクル担
当課か当組合事務所に至急連絡
して下さい。販売店回収の場
合は実施している販売店に連
絡願います。

流しの業者に出した場合、
車の看板がナンバーが解らな
いと調べ難くなります。
■気が付いたら直ぐ電話。
捜し物は、資源物を回収車か

ら荷下ろしする前に連絡を頂くと調べる範囲も小さく、比較的見つけ易くなります。すでに下ろして処理・加工してしまおうと、大変難しくなります。例えば古紙の場合、荷下ろし→紐切り破袋→選分→破砕攪拌→プレス結束などの工程を経るため、原形をとどめない形になってしまいます。同時に他から入ってきた荷とも混じってしまった益々発見が困難になってしまいます。

■出した時の正確な情報を。どんな荷姿で出したか、新聞なら何新聞か、ひもで結わえているか、古着なら袋の色・大きさ・一緒に入れた物、など情報が多いほど有利です。なお、回収車の色や車種・運転手の特徴・出した時間など解れば絞る易くなります。

■できるだけ現場に来て、一緒に捜して下さい。

捜し物を調べる時は、機械類は一切使わず、すべて人の

手と目で処理しなければなりません。その間、店の営業も止まり、時には何時間も掛るときがあります。しかも時間が長く掛るときほど出る確率が少なくなります。

業者としてはできる限りの手を尽くして調べますが、連絡

たとえビニール袋にいれても

雨の日には古着類は絶対に出さないで

Q 集積日、朝から雨が降っているのに、集積所にビニール袋に入ったポロ布をよく見かけます。良いのでしょうか。

A ダメです。ビニール袋に入っている、少しのすきまから雨水が入り濡れてきます。またしつかり結んであっても、ビニール袋の表面についた水滴がポロ布を濡らしてしまいます。濡れたままにするとカビが生え、臭くなるため、リサイクルできなくなります。すべてゴミとなってしまう。雨の日はポロ布は絶対に出さないで下さい。

全て人手による選別作業→古繊維再生処理工場を見学して、

去る平成十一年十二月三日
(金)、古繊維再生処理業者
「木村繊維㈱」の埼玉県加須市と騎西町にある古繊維再生処理工場を視察した。

まず最初に加須工場を見学

が遅れると、製紙工場など次の場所に荷が移ってしまうことも多く、捜す手段を失ってしまいます。

■連絡してからも別の場所に置いていないか捜して下さい。大事なものは案外大切にまつているものです。前記のよ

うに業者は捜すのに大変な労力を要します。不運にも捜せなかったと連絡すると、「すみません家にありました。」と言われることも多いのです。見つかり次第再連絡願います。

ここでは、作業員の方々が、搬入された古繊維を破袋からウエス・中古衣料・反毛原料・禁忌品への選別、ウエス製品へのカッティングまで全て手作業で行っていた。会社側の説明では、特に禁忌品の選別が一番大変で、なかでも毎日出る使用済紙オムツの除去作業は、ただでさえ悪い職場環境の悪化を助長するもので非常に困るということであった。

最後に、会社側との質疑応答が行われた。この中で会社側は、古繊維リサイクルのマネーとして、古繊維回収の際に集積所へ出す時は、禁忌品

を絶対に混入して出さないことや雨の日に古繊維を出すと、ビニール袋に入れて縛って出しても、縛り口の隙間から水滴が入って古繊維が濡れてしまい、量的に乾かすのは不可能で、濡れたままでは再生商品化してもカビが生えて売れないため、雨の日には古繊維は出さないというルールを徹底



古繊維選分場

底してほしいと要望していた。今回の視察を終えて、私達一人一人が古繊維リサイクルのマナーを守って古繊維回収率の向上に貢献し、古繊維再生商品をどんどん使うことにおいて、古繊維リサイクルの安定的発展に寄与することが出来るのではないだろうかと思感した。

東村山・田無リサイクルフェア

分別教室開催

昨年十月十七日、東村山市・田無市において、リサイクルフェアが開かれ、昨年も組合として全力で取り組んだ多くの市民にリサイクルの重要性を説明し、とくに雨の日には古着は絶対に出さないように訴えた。

また、資源の分別と「ブルーメラン」の販売を通じて再生紙の利用促進をお願いした。

分別教室



ヴィーナス短信

● 昨年4月より保谷市の古紙・古着委託回収を一部地域で当組合が実施していたが、十月下旬より増車に伴い回収地域が拡大され、保谷市のやぐ3分の2を委託回収する事になった。

● 東久留米市にある大団地、滝山団地自治会創立三十周年を記念して当組合副理事長藤本俊光氏が感謝状を授与された。氏は長年にわたり団地地域の集団回収などリサイクル

の発展に寄与したことが受賞の対象になった。

● 埼玉聴覚障害者福祉会『ふれあいの里・どんぐり』へ久米川紙業がブルーメランを四ヶース寄贈

新人紹介

- 1 名前 2 生年月日
- 3 趣味 4 好きな食べ物
- 小平リサイクルセンター
- 1 木崎景一
- 2 昭和四十四年十一月十五日
- 3 オートバイのり
- 4 焼肉
- 1 朝倉由旬
- 2 昭和五十三年五月十八日
- 3 ドライブ
- 4 からあげ
- 1 宮崎信子
- 2 昭和二十二年二月六日
- 3 ソフトボール・ゴルフ
- 4 果物

私の履歴書

(株)久米川紙業

会長 吉浦力夫

昭和三十年夏親子三人で東京に出て来ました。山谷で泊まりながら職探しをしました。が、なかなか見つからず、今日だめだったら、京都に帰ろうと決めた日に、墨田区あたりだと思えますが路上に置いてある大八車の上で寝ている年配の人に話しをしたところ、吾妻橋三丁目にある榎本商店を紹介してもらい、住込みで働ける様になりました。大八車を引いてのバタ屋の始まりです。八ヶ月ぐらい働くと、今度は、日暮里の高橋商店に移り、一年ぐらい働いたと思えますが、その時に長女が生まれました。その後、中野の白井商店に移り今度はリヤカーを引いてのクズ屋の始まりです。自転車をつけてからは、仕事量、売上も増え、自分でアパートも借りられる様にな

りました。

昭和四十年に友人が建場を営業していた小平で、働ながら運転免許を取得して、家族全員で東村山市の久米川の駅前に移り商売を始めました。団地専門のちり紙交換久米川紙業のスタートです。東資協にもすぐ参加しました。

商売を始めた頃の久米川駅前には、なにもない田舎の駅でしたが二十年もたつと開発が進み立派な商店街に変わってきました。なにかと商売がやりづらくなってきた頃、地主さんから立ち退きの話が来ました。今から思うとちょうど世の中がバブルに向かっている頃ではないでしょうか。私自身、建場業もこの場所では伸ばすことができない、広い場所でもベラーを入れて商売をしたいと考えていた時期でしたのでチャンスだと思えました。必死であちこち土地を探しましたが、なかなか土地

がみつからず困っていた所、友人の斉藤さんが狭山の営業所の権利を売るからやってみないかと声をかけられました。息子と相談し、土地の広さ、交通の便等、好条件なので、是非やろうと賛成してくれました。一大決心をして移転を決意。昭和六十一年十月、株式会社久米川紙業の始まりです。移転当初は朝四時から夜の十一時まで働き、必死になって客を増やしていきました。おかげで、二年後には、ベラーも百馬力を購入し、取引量も開業当初から比べると五倍になりました。

私の商売の考え方として、長く商いを続けるためには、なるべく早くに息子に仕事を渡し、若いうちに苦勞をさせしておくべきだと思い、七十歳になったのを機に社長を交代しました。今は、毎朝会社に行き社員の出勤するのをまつてから自宅に帰る毎日です。

1 小船仁義

2 昭和五十年六月三日

3 ドライブ

4 寿司

1 波多野智彦

2 昭和五十一年五月十九日

3 ビデオ鑑賞

4 焼肉

中島町リサイクルセンター

1 下田子工

2 昭和十六年十一月三日

3 花

4 魚

柳泉園リサイクルセンター

1 藤野貴夫

2 昭和四十六年一月二十三日

3 つり、サッカー

4 からあげ

1 岩鍋浩二

2 昭和五十四年四月十八日

3 車

4 すきやき

行事・行動

(九月)

- 三日：新聞リサイクル会議
- 七日：保谷市廃棄物減量審
- 九日：定例理事会
- 一〇日：R団連常任幹事会
- 一五日：武蔵野市ごみ市民の
会講演
- 一七日：古紙センター業務委
- 二〇日：委託事業委員会
- 二一日：東村山廃棄物減量審
- 二四日：集団回収委員会
- ：東大和審議会
- (十月)
- 七日：新聞リサイクル会議
- ：古紙分別設定委員会
- 九日：定例理事会
- 一〇、一三日：海外視察
中国班・韓国班
- 一七日：田無市リサイクル祭
：東村山リサイクル祭
- 一九日：R団連幹事会
- 二〇日：容器包装識別勉強会
：多摩R団連幹事会

- 二一日：清瀬市廃棄物減量審
- 二二日：古紙循環プロジェクト

ト

(十一月)

- 二三日：RC安全会議
- 二六日：東村山廃棄物減量審
：広報委員会
- 一日：R団連古紙部会
- 八日：古紙分別設定委員会
- 一〇日：東久留米廃棄物減量
審
- 一五日：R団連幹事会
：広報委員会
- ：東大和審議会
- 一六日：保谷市廃棄物減量審
- 一七日：新聞リサイクル会議
- 一八日：古紙センター業務委
- 一九日：小平市廃棄物減量審
- 二二日：委託事業委員会
- 二五日：清瀬市廃棄物減量審
：東久留米廃棄物減量
審
- 二九日：保谷市廃棄物減量審
：広報委員会
- 三〇日：東村山廃棄物減量審

リサイクル川柳

編集後記

古紙価格どうなるんだろう
デノミして
*やっと一円ついたのに

定年も リストラも無く
古紙集め

*それで幸せ？不幸せ？

スママセン？

警察だって スママセン
*本当にいらねーぞ！
—逆ネジ—

古紙価格

上がって良いやら悪いやら：
*先取りされて何も無し

容り法

推進するほど離サイクル
*容器包装離サイクル法だ
—古紙元—

新年明けましておめでとーう

ございます。今年は二十世紀最後の年です。悔いを残さないで二一世紀を迎えましょう。

今号の直言拝聴にご寄稿下さいました滝本様ありがとうございます。五千年前の先人たちができた分別を教育で理解してない人達がいるようです。管理人のいないマンションなどとはとくにひどく毎日生ゴミが出されている所もあるようです。先生がおっしゃった三つの提言は国が実行しなければいけないけれど、一人の人間として我々も実行しなくてははいけないのではないのでしょうか。

昨年は韓国と中国に視察に行くことができました。日本国内だけでなく海外のリサイクル事情を勉強するののもとても参考になるものです。(吉浦)